シュアレスの「三人」（宮崎嶺雄君訳）

岸田國士

青空文庫

私は嘗て、シュアレスを知るために、そして同時に、フランス人の観たイプセンなるものを注意するために、この『Trois Hommes』を読んだ。

近代劇の始祖といふ名で、また、深刻な思想劇作者といふ名で、この北欧の天才を眺めてゐた私の眼前に、忽ち、一個の異つた風貌が現はれた。民族の夢と痼疾を背負ひ、しかも、これに立ち対ふ荒々しい孤独の魂である。われわれが単に、「イプセン的」なりと考へてゐたものの中に、実は寧ろ「諾威的」といふべき気候が支配してゐることを初めて感じ、この巨大な精神を新しく理解すべき鍵を与へられたやうに思つた。

この発見は、更にパスカル及びドストエフスキイの頁を読む興味を倍加させた。私はこの「三人」によつて、様々な感動と愉悦を味はつたが、何よりも著しい利益を得たと思ふのは、イプセンが諾威人であり、ドストエフスキイが露西亜人であり、パスカルが仏蘭西人であるといふ単純で明確な事実を、それぞれの文学的特質の上で、初めて、単純に、明確に、印象づけられたといふことである。外国文学の理解翫味は、かゝる基礎の上に立たなければ、往々、独合点に陥るものではないかと思ふ。

が、しかし、シュアレスは、彼自身、決して民族的立場からこの「三人」を取扱つてゐるのではない。彼は飽くまでも、近代に生きる孤高な悲劇詩人として、これらの先輩に熱烈な握手を求めてゐるのである。彼の批評の眼は冷たく凍つてはゐない。その分析は深く内奥の秘密を探る如くであるが、寧ろ常に、誠実な挨拶であり、率直な歓呼に外ならぬ。

私はこの書が日本に紹介されることを望み、山本書店主に勧めてその翻訳を、最も適任と思はれる宮崎嶺雄君に委嘱した次第である。それ故、内容、訳文ともに、私は責任を以てこれを江湖に推薦し得ることを悦ぶものである。（一九三五・三）

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集22」岩波書店
　　1990（平成2）年10月8日発行
底本の親本：「時・処・人」人文書院
　　1936（昭和11）年11月15日発行
入力：tatsuki
校正：門田裕志
2009年9月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

シュアレスの「三人」（宮崎嶺雄君訳）

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/